

2001年度日中医学協会共同研究等助成事業報告書

－学会開催に対する助成－

2001年11月12日

財団法人 日中医学協会 殿
理 事 長 殿

報告者氏名 小瀬一弘
所属機関名 群馬大学 医学部
職 名 教授
所在 地 〒371-8511 前橋市昭和町3-78-22
電話 027(220)2960 内線 91411

1. 学術会議の名称 大連医科大学・群馬大学医学部・大学改革フォーラム
 テーマ 大学改革フォーラム
 主催者 群馬大学 医学部 国際交流委員会 代表者氏名 小瀬一弘
 期間 2001年9月20日～9月21日 開催地 前橋市
 参加者数 日本側 151名 中国側 2名
 招聘・派遣の目的 大連医科大学より代表を招請し、両校の間に実施する
 大学改革の問題を協議すると共に、学術の交流、留学生の
 交流、市民との交流を図る

2. 招聘・派遣研究者 人数 2人 記入欄不足の場合は別紙を添付

氏名	所属・役職	研究分野
李潮	大連医科大学・学長	臨床心理学
李昌臣	大連医科大学・主任教授	内科(精神医学)

3. 主な滞在日程

滞在期間　自 2001年9月18日 至 2001年9月21日

9月18日 我田蒼（我田沼）

9月19日 前橋蒼 前橋市民との交流を行ふ

9月20日 北関東医学会 学術講演会

群馬県立病院と関係者による大学改革山崎裕子松本誠

寄生虫との交流会

9月21日 群馬大学・信州大学 ←→ 長春中医学院・大連医科大学にて
テレビ回線を利用して、群馬府中の生活習慣病
に関するフォーラムを開催

9月22日 前橋蒼・国内旅行研究

4. 学術会議報告書

別紙報告書作成要領に準じ、添付の用紙で成果・今後の課題等を報告して下さい。

抄録集・プログラム・写真等、学会に関する資料を添付して下さい。

5. 収支報告

交付を受けた金額 46万 円

支出内訳（旅費・宿泊費・印刷費その他の科目別に記載、別紙可）領収書コピーを添付すること。

科 目	金 額	備考（用途・内訳）
旅費	234,912	航空代金（大連・我田）
"	25,000	国内移動（JR券他）
宿泊費	200,088	ホテル代金（シーリン）

— 日中医学協会助成事業 —
大連医科大学・群馬大学医学部・大学改革フォーラム

研究者	姜 潮 教授、李 昌臣 教授
中国所属機関	大連医科大学・校長
日本研究機関	群馬大学医学部
指導責任者	教授 小濱 一弘

要 旨：大連医科大学と群馬大学医学部は共に国家計画としての大学改革にまき込まれているが、大連医科大学より姜 潮学長と李 昌臣教授をお招きして、意見を交換した。この内容はテレビ中継で中国にも伝えた。研究者の学術交流ならびに市民との親睦の機会を持った。

Key Words : 学術交流、大学改革

緒 言：大連医科大学との交流は平成元年に笹川医学研修生として林 原君を群馬大学医学部にあずかったことから始まります。林 原君はその後何回か来日し、努力の結果、本学で医学博士の学位を得ています。また、これまで両大学間のパイプ役として交流に協力してくれました。おかげで、お招きできた役職のある教授方は 10 名をこえ、あずかった大学院生が 15 名以上。そのほとんどが国費留学生であります。受け入れ側の教室も私が担当する薬理学教室のみならず、7つの講座・研究施設にまたがっています。一方、群馬大学側からは私が年に 1 ~ 2 回何らかの機会をとらえて訪問していますが、最近では前学部長や現学部長を含む何人かの教授が出張しセミナーや講義を行っています。当然のことながら学術交流協定は平成 9 年に締結し、現在は 2 期目に入っています。この様な研究者間の交流ばかりでなく、もっと若い世代に何十年にもわたる交流をしてもらうべく、平成 10 年からは毎年 2 人づつ医学生を短期的に派遣しています。今年(平成 13 年度)からは群馬大学医学部に小さな資金ができ、派遣ばかりでなく、大連医科大学より医学生を受け入れ事ができる様になりました。市民との交流も活発に行っており、平成 12 年前橋市ユネスコ協会のメンバーが大連医科大学を訪問した。平成 13 年には大連市より同協会が市民マラソン参加者を招待しました。

成果内容：日中医学協会のサポートにより平成13年9月に大連医科大学の姜校長と内科主任教授の李先生を群馬大学医学部にお招きする事ができました。学術交流では群馬大学医学部が主催する北関東医学会に併合して開かれました。お2人の先生の専門分野(姜 教授は自殺問題、李 教授は糖尿病問題)を中国の国情に照し合せて話をしてもらいました。特筆すべきことは、群馬大学医学部・酒巻教授のお骨折りで衛星回線と電話回線を利用して群馬大学・信州大学↔長春中医学院・大連医科大学とでテレビ中継された事であります。

群馬大学・学長室のある荒牧キャンパスを訪問し、両大学の学長並びに関係者によるフォーラムでは大学改革の問題が話されました。大連医科大学では総合大学化の問題、群馬大学では独立法人化の問題があり、大学改革の必要性と同時に困難性について意見が一致したようでした。中国でのひとりっ子政策、日本での少子化という若年者の数の減少も共通した話題となりました。同キャンパスにある留学生センターを訪問し、所長との懇談、及び現在建設中の留学生会館見学を行いました。また夕方には一昨年に大連を訪問した前橋ユネスコ協会のメンバーと親睦の機会をもちました。

今後に残された問題と発展：大学の改革のフォーラムは大連医科大学が他の大連市の大学と合併し、総合大学化するという昨年来の計画が失敗した事もあり、正面に出して行えませんでした。姜学長によれば、サルはサルでヒトはヒト、両者が一緒になるのは困難であるということでした。幸いに群馬大学はすでに総合大学化しているということで合併問題はないこと、そして、むしろ独立法人化して社会との対応を広げてゆく事が要求されていることを説明しました。後者に関しては、大連医科大学におけるスポーツ・ジムの開設計画が披露されました。この計画に対し、前橋市民との交流のもとで協力することを約束しました。

学術交流とテレビ会議に関しては成果欄に記入した通りですが、群馬大学側において中国に対する関心が深まり、引いては留学生招待、市民交流の推進に役立つと思われます。両先生が帰国されその一週間後に大連医科大学より2人の医学生の来日が実現しました。

作成日 2001年11月12日